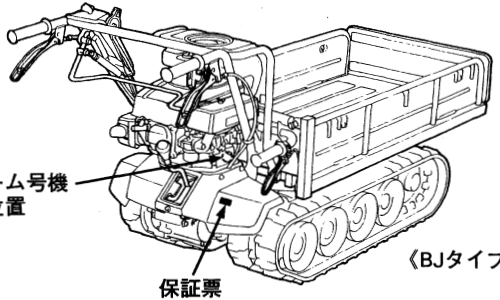
ホンダ運搬機

力丸（りきまる）

HP400 取扱説明書

お買いあげありがとうございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。



《BJタイプ》

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30742603
00X30-742-6030

Ⓝ ⒽⒸ 10009107

1 安全にお使いいただくために

運搬機は正しく取扱って下さい。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な作業のために次のことを必ずお守りください。

●安全のために知っておきたいこと

★この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解のうえ自分で操作してください。

★日常点検、整備を忘れずに。

★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気がないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

★人を乗せたり、近寄らせないこと。

★工具を適切に管理し、正しく使用する。

★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。

★この運搬機で公道は走れません。必ず私有地でご使用ください。

●作業を始める前に

★必ず点検、整備を行う。

- 点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行ってください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒の危険があります。

★防護装置の保全

- 防護装置は正しく取付けられているか。
- 点検、整備のため取外された防護装置は正しく復元され、確実に締付けられているか。

★クローラの上面が水につかるような深い水田等では使用しないでください。

★傾斜地での発進、停止は十分注意して行ってください。

★急傾斜地でのUターンおよび変速は避けてください。

これだけはぜひ守りましょう

●荷物の積載上の注意

★過積載は大変危険です。必ず「積載のしかた」(15頁参照)を守って使用してください。

- 荷台の上には人を乗せないでください。
- 荷台に荷物を積載する場合は荷くずれしないよう、しっかりとロープで固定してください。
- 荷台からはみ出すような荷物は積載しないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したり、運転操作に支障をきたし大変危険です。
- 高く荷物は積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなり大変危険です。

●作業中の注意

★作業中は、まわりに十分注意してください。

★作業場への出入り、溝または畔の横断、砂地での使用、軟弱地の通過など、転倒には十分注意してください。

★この運搬機は25度以下の傾斜地で使用してください。

★運転中は、クローラ部に足や手を近づけないでください。またフェンダやシフト　パタン　プレートに足をかけないでください。

★作業者は通常使用のときは前進で運転してください。万一後進で使用するときは足元、荷くずれ、後方視界などに十分注意して行ってください。

★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。

★ガソリン補給時、必ずエンジン停止、火気厳禁。

- ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。

●作業が終ったら

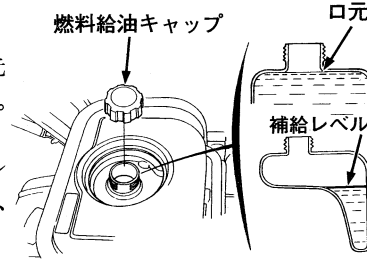
★エンジンを停止させ、冷えてから各部の清掃を十分行ってください。

★格納する場合はエンジン、排気系が完全に冷えてから燃えやすいものが近くにないところに格納してください。

2 エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめ、点火プラグ　キャップをプラグから外して行ってください。

ガソリンの点検



点　検

燃料給油キャップを外し、注入口の口元までガソリンがあるか点検してください。少ない場合は補給してください。

運転中にガソリンがタンクの補給レベルに近づいていましたら、エンジンを止め、ガソリンを注入口の口元まで補給してください。

補　給

●キャップを外し、注入口の口元まで補給してください。

使用ガソリン:無鉛(レギュラ　ガソリン)

タンク容量：1.6 ℓ

●補給後、キャップを完全に締付けてください。

注意

- **火気厳禁**
- **必ずエンジンをとめて補給してください。**
- **本機に貼られている注意ステッカに従ってください。**

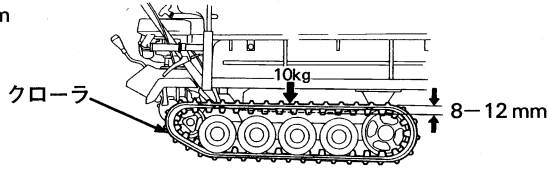
クローラの点検

クローラに損傷はないか、ゆるんでいないか点検してください。

《点検のしかた》

クローラの中央部を強く(約 10 kg)押した時たるみが下記寸法になっているか点検してください。(調整方法は21頁参照)

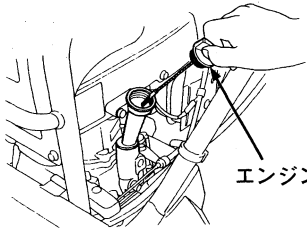
たるみ量：8—12 mm



エンジン　オイルの点検

点　検

オイル給油キャップを外し、キャップをねじ込まず差込んで点検してください。
油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。



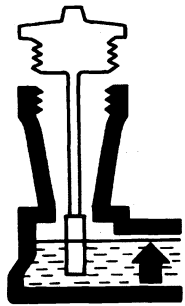
補　給

- キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給してください。
- 推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
  ②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

- **低温時(気温10°C 以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温－15°C以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。**



- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は19頁参照)

注意

- **キャップは、手で確実に締付けてください。**
  締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

空気清浄器(エア　クリーナ)の点検、清掃

点検:作業前

1. 締付けボルトをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。
2. ろ過部(ウレタン、紙)の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合はろ過部の清掃を行ってください。

空気清浄器が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

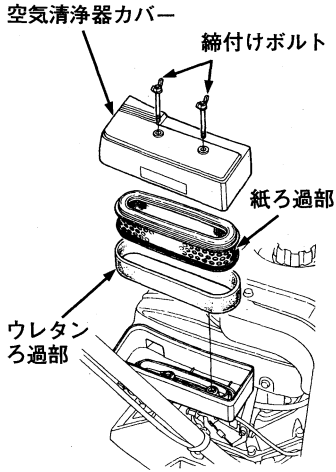
《清掃時期》

50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

《清掃のしかた》

1. 締付けボルトをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。
2. ウレタンろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水をすすいでから圧縮空気を吹きつけるか又はよく絞って乾かします。次にオイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



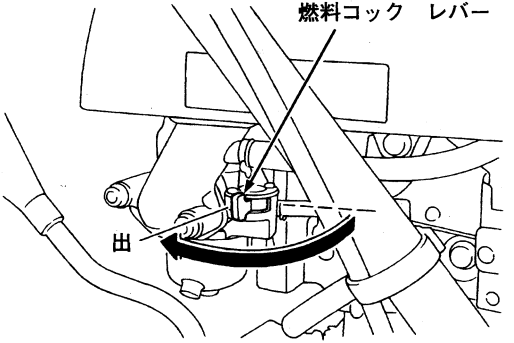
注意

- **ろ過部を洗浄する時は火気厳禁**
- **空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動してカバーが外れることがあります。**
- **空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン、紙)を装備しなかったり、取付けが不完全だと、エンジンに悪影響をあたえる原因になります。**

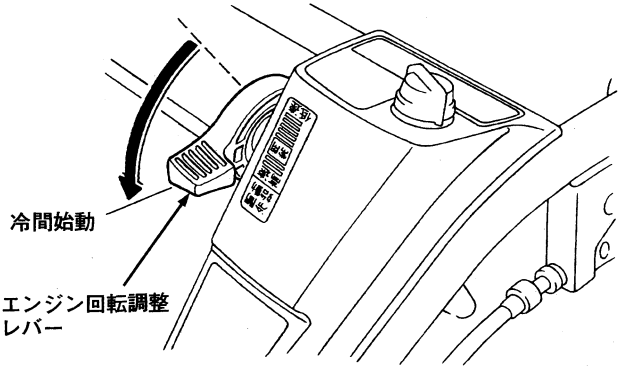
3 エンジンのかけかた

〔止めかたをよく覚えたうえでエンジンをかけてください〕

1. 燃料コック　レバーを**“出”**に合わせてください。

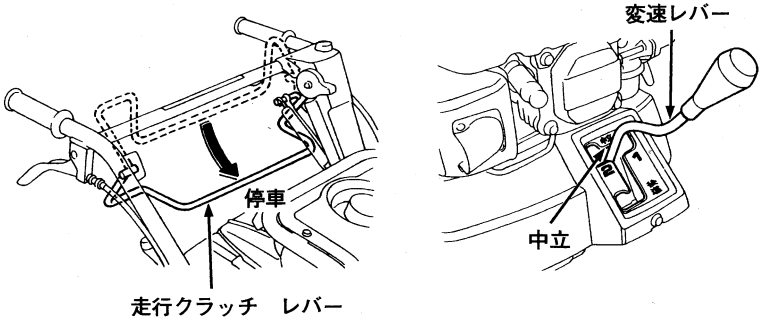


2. エンジン回転調整レバーを**“冷間始動”**の位置に合わせてください。
エンジンを止めて間もないときは**“低速”**の位置で始動できます。

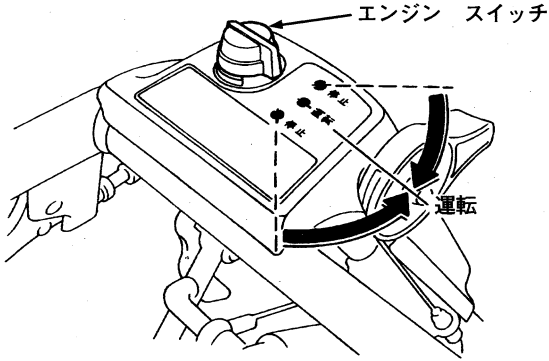


3. 走行クラッチ　レバーが**“停車”**の位置で、変速レバーが**“中立”**になっている事を確認してください。

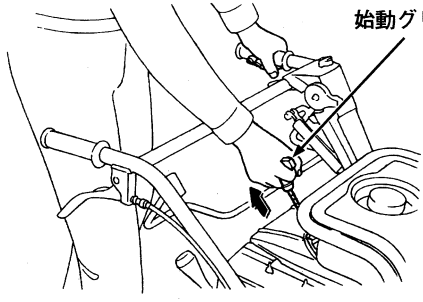
走行クラッチ　レバー　“停車”　　**変速レバー　“中立”**



4. エンジン　スイッチを**“運転”**に合わせてください。



5. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引いてください。

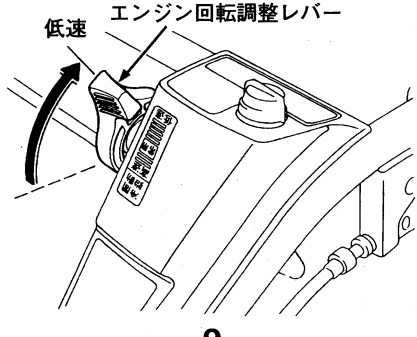


注意

- **始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。始動装置を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。**
- **運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。**

6. 2～3分暖機運転を行います。
エンジン回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを**"低速"**にしてください。

- 暖機運転を行うことにより、エンジン各部にオイルをいきわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



4 運転操作のしかた

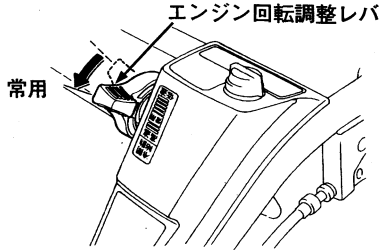
★安全な作業を行うために、安全にお使いいただくための全項目を十分理解して行ってください。

1 エンジン始動

7頁のエンジンのかけかたに従ってエンジンを始動してください。

2 運転操作

1. エンジン回転調整レバーを“常用”に合わせてください。

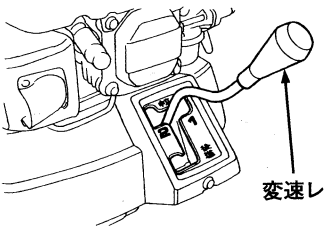


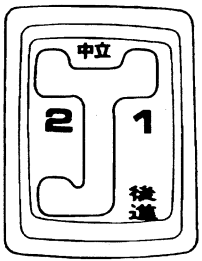
注意

- **降坂時は、エンジン回転調整レバーを“低速”で使用してください。**

2. 作業に合わせて変速位置を選んでください。

- 変速操作を行う時は、必ずエンジン始動後行ってください。
- 変速操作は、必ず走行クラッチ　レバーを下げた状態(“停車”)で行ってください。

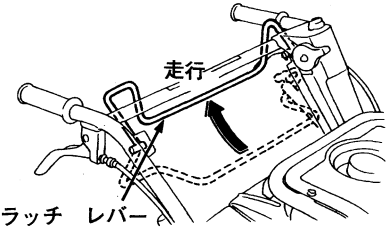




注意

- **急傾斜地では、必ず1速で走行してください。**
- **走行中に変速操作は行わないでください。**

3. 走行クラッチ　レバーをすみやかに上げてください。走行を始めます。



●走行クラッチ　レバーをゆっくり上げると、エンジンが停止する事があります。

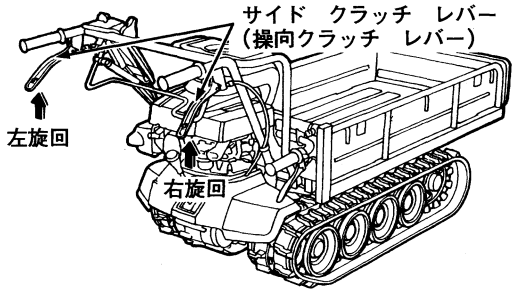
注意

●傾斜地でエンジンが停止した時は、すみやかに走行クラッチ　レバーを下げ“停車”にしてください。

3 旋回のしかた

●旋回しようとする方向のサイド　クラッチ　レバー(操向クラッチ　レバー)を握ると旋回します。

●サイド　クラッチ　レバーを操作する場合は、レバーを確実に握ってください。



注意

●傾斜地で操作する場合は特に注意してください。

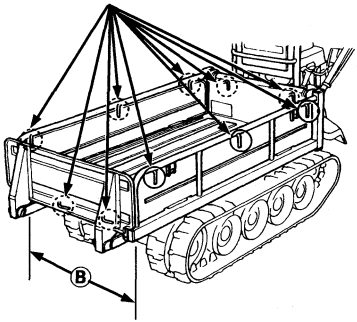
4 荷台の使いかた

注意

- **荷物を積載する時は、必ず定められた荷台寸法内で積載重量、正しい積載のしかた、傾斜角度を守ってください。エンジンやフレームに悪影響をあたえるばかりでなく荷くずれなどで大変危険です。**

キャリア　タイプに荷物を積載する時は、必ず荷くずれしないようにしっかりとロープでロープ　フックを使い固定してください。

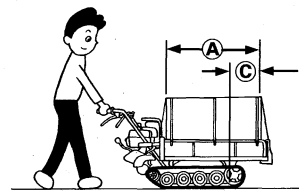
ロープ　フック位置



・CJN(荷台なし)タイプの推奨荷台寸法

Ⓐ	長さ	1,110 mm以下
Ⓑ	巾	780 mm以下
Ⓒ	フロント　オーバハング	370 mm以下
	荷台重量	40 kg以下

・寸法は荷台の内側寸法



荷台ブラケット中心

注意

- **ロープ　フック以外にはロープをかけないでください。**

ガード　パイプの使いかた

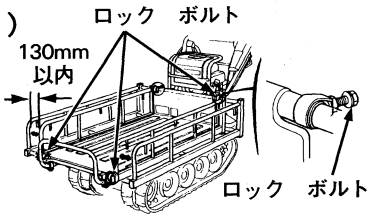
ガード　パイプは左右 130 mm ずつ広げる事ができますが通常の場合は標準の位置で使用してください。

かさばる物、軽量物を積載する場合に使用してください。

- 積載物にロープをかける時はガード　パイプが積載物に軽く当たるようにセットしてください。

ガード　パイプの取扱い
(BJ, CJ, CJLタイプ同じです。)

左右のロック　ボルト４本をゆるめガード　パイプを横方向に積載物に合わせて、左右均等(130 mm 以内)に引き出してください。引き出し後確実にロック　ボルトを締付けてください。

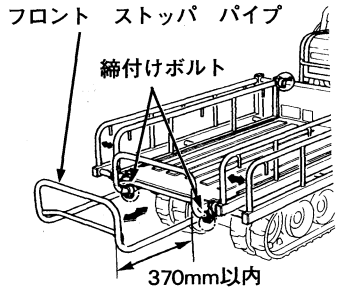


フロント　ストッパ　パイプの取扱い(CJ, CJLタイプのみ)

締付けボルト２本をゆるめ積載物の長さに合わせて引き出してください(370 mm まで)。引き出し後確実に締付けボルトを締付けてください。

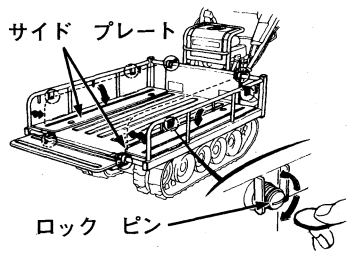
注意

- **フロント　ストッパ　パイプを引き出して使用するときは、15度以下の傾斜地(登り、下り共に)で使用してください。**



サイド　プレートの取扱い
(BJタイプのみ)

サイド　プレートを倒して使用するときは、ガード　パイプを左右均等に 130 mm まで引き出して使用してください。倒すときは、ロック　ピンを押しながら90度右または左に回してください。取付けは逆の方法で行ってください。



フロント　ストッパ　プレートの取扱い(BJタイプのみ)

倒すとき(水平にするとき)

1. 左右のロック解除レバーを手で同時にゆっくりと下へ押してください。

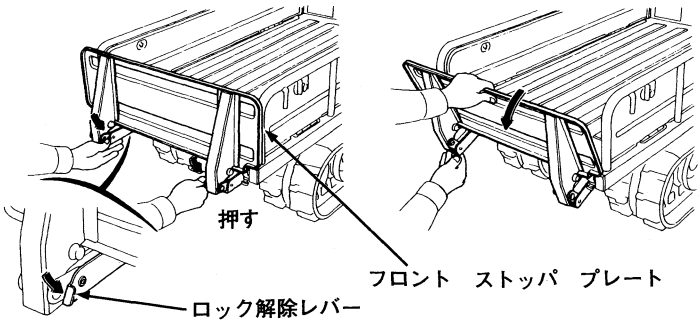
注意

- **解除レバーを早く押しすぎるとフロント　ストッパ　プレートが不意に前方へ倒れますので注意してください。**

2. ロックが外れますのでフロント　ストッパ　プレートを下へロック(水平状態)するまで押し下げてください。
3. ロックしたかどうか軽く手で持ち上げて確認してください。

起こすとき(直立にするとき)

1. 倒すときの要領でロック解除レバーを下へ押し、ロックが解除されたら手で起こしてください。
2. ロックしたかどうか手で動かして確認してください。



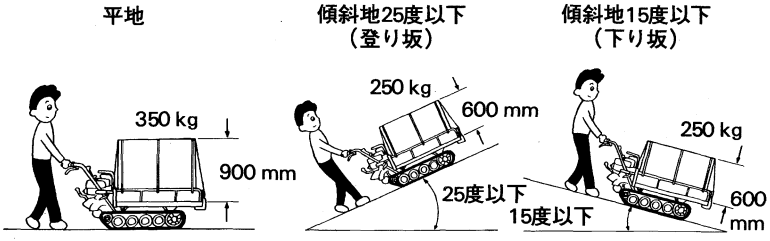
注意

- **フロント　ストッパ　プレートを倒して使用するときは、15度以下の傾斜地(登り、下り共に)で使用してください。**

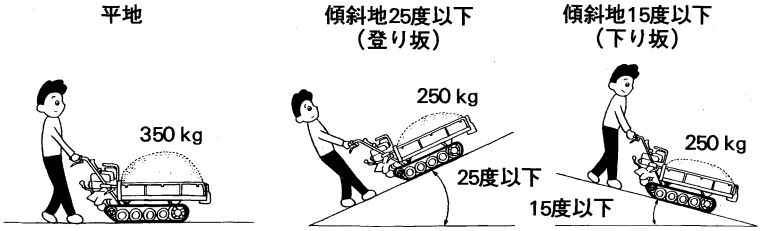
5 積載のしかた

この運搬機は25度以下の傾斜地で使用してください。

キャリアとして使用する場合（CJ, CJL, CJNタイプ）

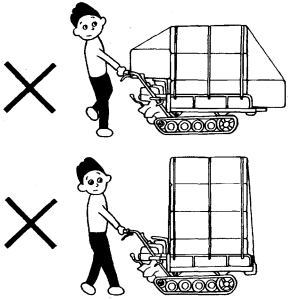


ホッパとして使用する場合（BJタイプのみ）



注意

- 荷台からはみ出すような荷物は積載しないでください。荷物が落下したり、狭い道で荷物が接触したり、運転操作に支障をきたし大変危険です。
- 高く荷物は積載しないでください。前方の視界をさまたげるばかりでなく、重心が高くなり大変危険です。



6 傾斜地での使いかた

走行について

1. 必ず1速で走行してください。
2. 足場が悪い場合は、車速を下げて足元に十分注意して作業を行ってください。
3. 降坂時は、特にエンジン回転数を下げ、エンジン　ブレーキを使用してください。
4. 傾斜地での発進、停止は十分注意してください。
5. 急傾斜地でのUターンおよび変速は避けてください。

積載について

1. 傾斜地では荷物の安定性が悪くなりますので、ロープ等でしっかり固定してください。
2. 路面の状態により本機の安定性が悪くなりますので、荷物は控え目にしてください。
3. 傾斜地では前方の視界が悪くなりますので、荷物の高さを控え目にしてください。

7 ダンプ　ロック解除レバーの使いかた（BJタイプのみ）

解除するとき……レバーを握りハンドルを持ち上げます。
ロックするとき……ハンドルのみ持ってロックするまで下げます。

解除するとき



ロックするとき

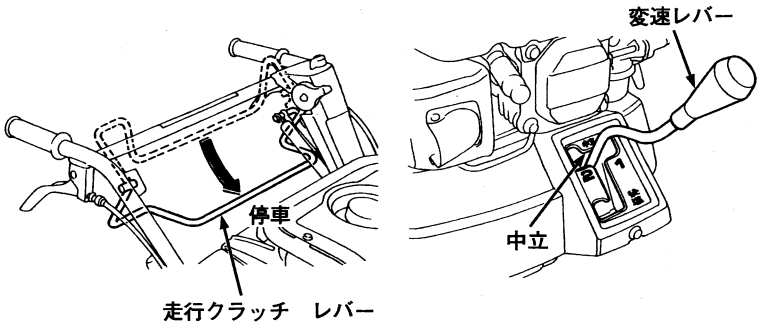


注意

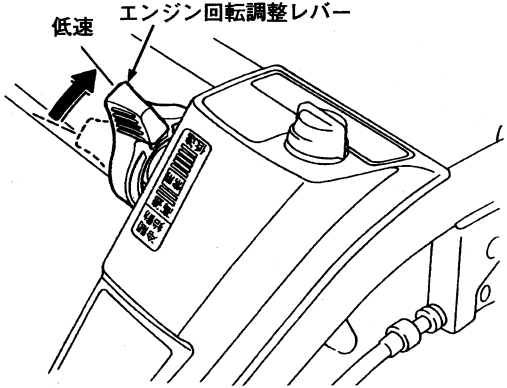
- **荷台が確実にロックしているか確認してください。ロックが不完全な場合は、降坂中に荷台がダンプ（持ち上がる）してしまう事があり、大変危険です。**

5 エンジンの止めかた

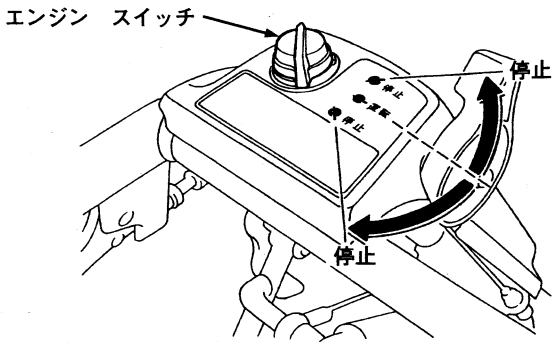
1. 走行クラッチ　レバーを下げて(**“停車”**)、変速レバーを**“中立”**にしてください。



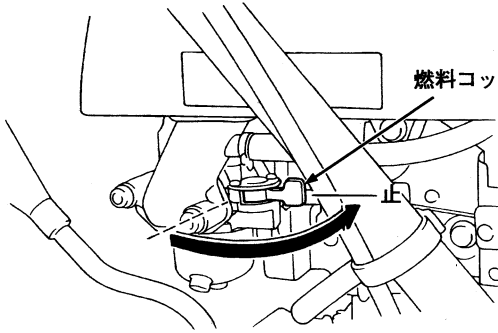
2. エンジン回転調整レバーを**“低速”**に合わせてください。



3.エンジン　スイッチを**“停止”**に合わせてください。



4.燃料コック　レバーを**“止”**に合わせてください。



運搬のしかた

トラックなどで運搬する時は、燃料コック　レバーを**“止”**、走行クラッチ　レバーを**“停車”**にして、さらにロープ等でしっかりと固定してください。

6 やさしい点検・整備

★ 点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止して点火プラグ キャップをプラグより外してください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

〈交換時期〉 初回:20時間目、以後:100時間運転毎

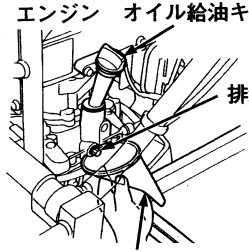
推奨オイル:ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)

②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

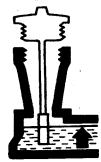
- **低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時(気温−15°C以下)では、API分類SE、SF級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。**



〈規定量〉 0.6 ℓ

〈交換のしかた〉

1. エンジン オイル給油キャップを外し、オイル排油ボルトをゆるめてください。
2. 同梱のオイル ファンネルを図のようにセットしてから、オイル受けをセットして、排油ボルトを外しオイルを抜いてください。
3. オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締付けてください。
4. 新しいエンジン オイルを上限まで注入してください。
5. 注入後キャップを確実に締付けてください。



注意

- **エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、手でさわれる温度になってからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。**
- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

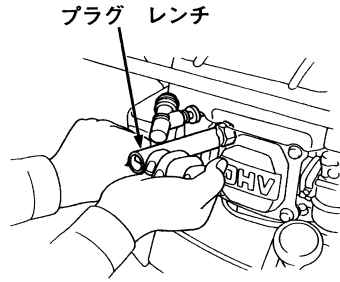
〈清掃時期〉

100時間運転毎

〈清掃のしかた〉

1. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

● プラグ　クリーナが無いときはワイヤブラシで汚れを落としてください。



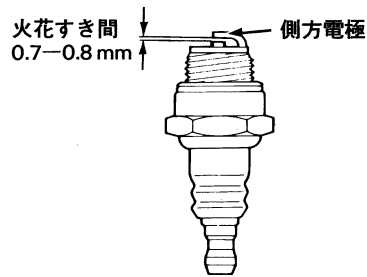
〈調　整〉

● 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7—0.8 mm

〈標準プラグ〉

BPR4ES(NGK)



注意

- **標準以外のプラグを使用しないでください。**
- **エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないように注意してください。**
- **プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。**

クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

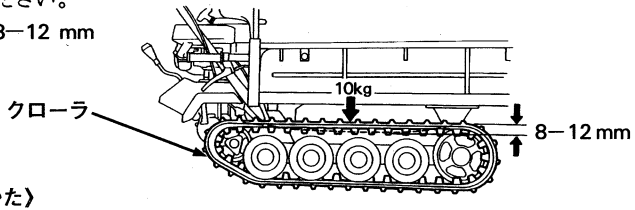
〈調整時期〉

初回:20時間目　以後:300時間運転毎又は1年に1回

〈点検のしかた〉

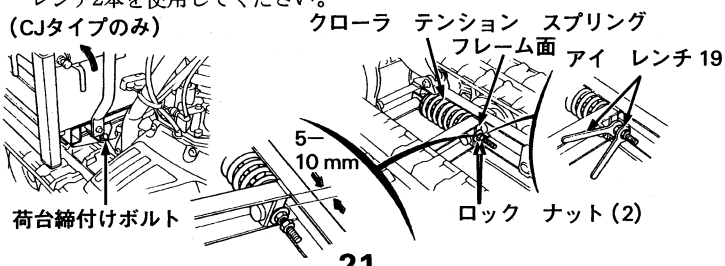
クローラの中央部を強く(約10kg)押した時たるみが下記寸法になっているか点検してください。

たるみ量：8—12 mm



〈調整のしかた〉

1. 荷台をダンプ(持ち上げて)してください。
   (下記タイプは、荷台締付けボルト左右2本を外してダンプ(持ち上げて)してください。)
   (CJタイプ)
   ロック　ナット2個をフレーム面とすき間ができるまでゆるめてください。
2. フレーム側のロック　ナットとフレーム面の寸法が下記寸法になるようにナットを手で締込んでください。
   規定寸法：5—10 mm
3. もう1個のロック　ナットで確実に締付けてください。締付けは同梱のアイレンチ2本を使用してください。



走行クラッチ　ワイヤの調整

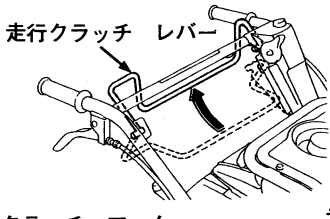
走行クラッチ　ワイヤの調整が完全でないと、クラッチがすべり走行できません。

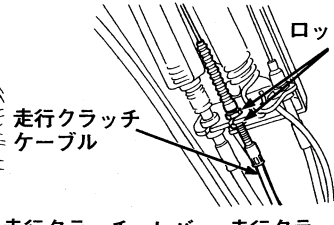
《調整時期》

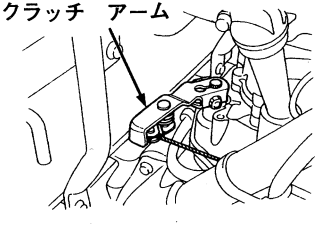
初回:20時間目、以後:100時間運転毎

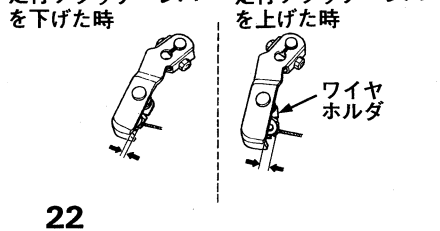
《調整のしかた》

1. 走行クラッチ　レバーを下げた状態(**"停車"**)で、クラッチ　アームとワイヤ　ホルダとのすき間を測定してください。次に走行クラッチ　レバーを上げた状態(**"走行"**)で再度クラッチ　アームとワイヤ　ホルダとのすき間を測定してください。
   レバーを上げた時と下げた時のクラッチ　アームとワイヤ　ホルダとのすき間(移動量)が下記寸法になっているか確認してください。
   移動量：1—2 mm
2. 調整はロック　ナットをゆるめて、走行クラッチ　レバーを上げ下げを繰り返しながら、走行クラッチ　レバーを上げた時にクラッチ　アームからのケーブル　ホルダの移動量が下記寸法になるようにしてください。
   移動量：1—2 mm
3. 調整後ロック　ナットを確実に締付けてください。









ブレーキ　ワイヤの調整

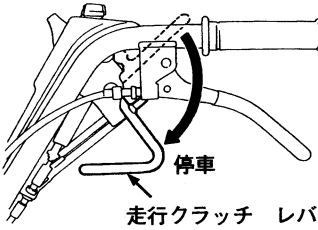
ブレーキ　ワイヤの調整が完全でないと、ブレーキの効きが悪くなります。

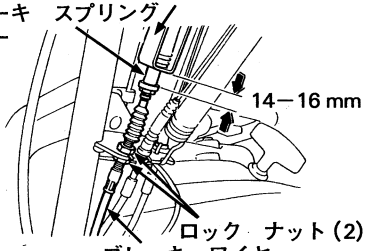
〈調整時期〉

初回:20時間目、以後100時間運転毎

〈調整のしかた〉

1. 走行クラッチ　レバーを下げた状態(**"停車"**……ブレーキが効いている状態)でブレーキ　スプリング　カラーがスプリング　ホルダから下記寸法になっているか確認してください。
   規定寸法：14−16 mm
2. 調整は、レバーを下げたままロック　ナットをゆるめ規定寸法になるようにしてください。
3. 調整後ロック　ナットを確実に締付けてください。



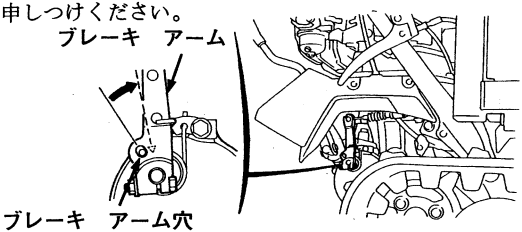


ブレーキ　シューの点検

ブレーキ　ワイヤ調整後、必ずブレーキ　シューの点検を行ってください。

〈点検時期〉 100時間運転毎

走行クラッチ　レバーを下げた状態(**"停車"**)でブレーキ　アームの穴位置が図の○から▽マークの間にあれば正常です。もし▽マークに近い時にはお買いあげ販売店へお申しつけください。



サイド　クラッチ　ワイヤの調整

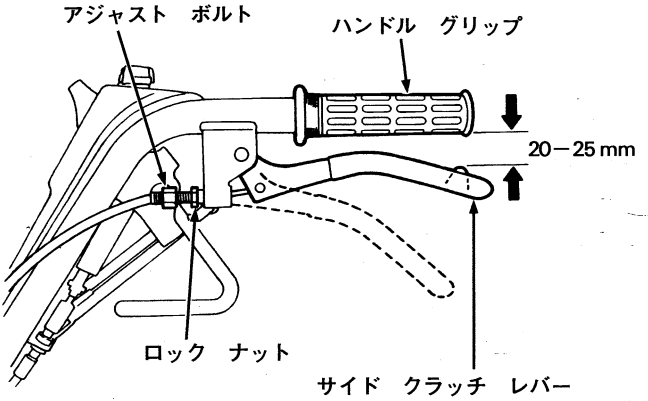
サイド　クラッチ　ワイヤの調整が完全でないとサイド　クラッチの切れが悪くなります。

《調整時期》

初回:20時間目　以後:100時間運転毎

《調整のしかた》

1. 運搬機を前後にゆすりながら、レバーが深く握れるところを探してください。
2. サイド　クラッチ　レバーを握った状態でレバーの凸部とハンドル　グリップとのすき間が下記寸法になっているか確認してください。
   規定寸法：20－25 mm
3. 調整は、レバーを握った状態でロック　ナットをゆるめアジャスト　ボルトで規定の寸法にしてください。
4. 調整後ロック　ナットを確実に締付けてください。



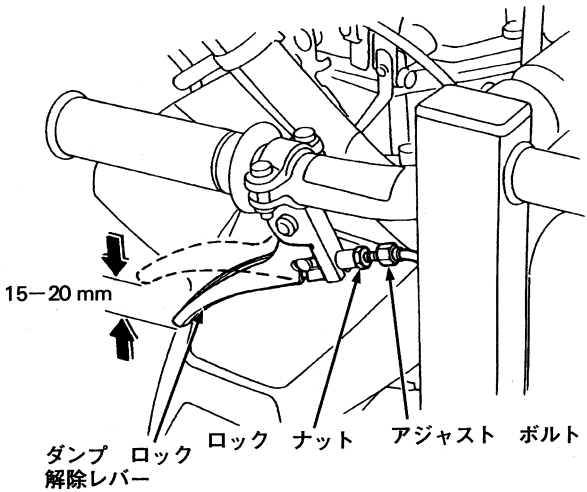
ダンプ　ロック　ワイヤの調整（BJタイプのみ）

《調整時期》

100時間運転毎

《調整のしかた》

1. 荷台をロックした状態でダンプ　ロック解除レバーの先端の遊びが下記寸法になっているか確認してください。
   遊び：15—20 mm
2. 調整は、ロック　ナットをゆるめアジャスト　ボルトで規定の寸法になるようにしてください。
3. 調整後ロック　ナットを確実に締付けてください。

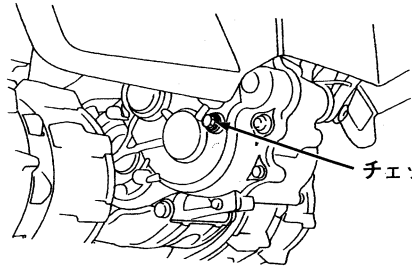


変速機オイルの点検

《点検時期》

300時間毎又は１年毎

チェック　ボルトを外して、オイルが入っている事を確認してください。もし少ない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。



クラッチ　オイルの点検

《点検時期》

300時間運転毎又は１年毎

下記タイプはダンプ　ロック解除レバーで荷台を上げてください。(16頁参照)

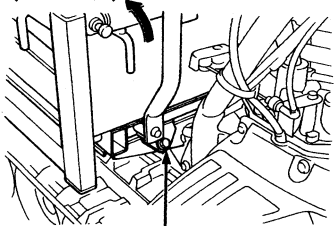
(BJタイプ)

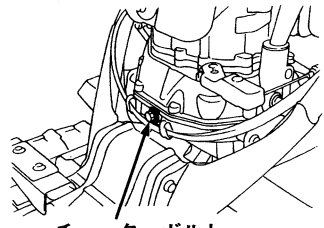
下記タイプは荷台締付けボルト左右２本外して上げてください。

(CJタイプ)

チェック　ボルトを外して、オイルが入っている事を確認してください。もし少ない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。

(CJタイプ)



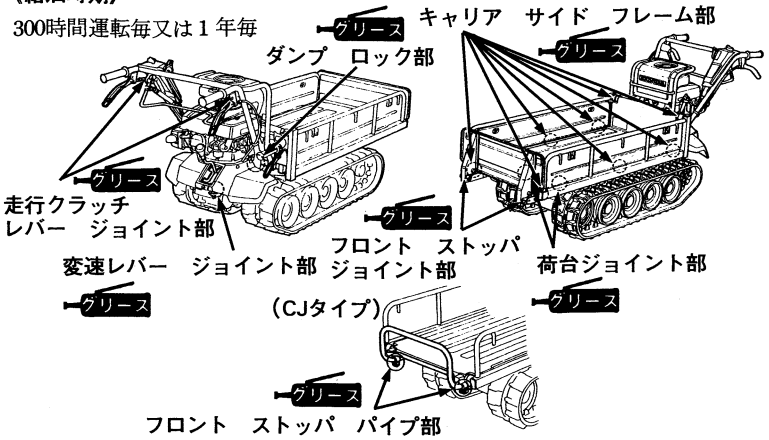


各部の給油について

運搬機を常に快適に使用するため、下記個所に給油してください。

《給油時期》

300時間運転毎又は１年毎



その他の点検･整備項目

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店で定期的に実施していただく項目があります。お買いあげいただきましたホンダ運搬機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

販売店で実施する定期点検整備項目

- ●エンジン回転調整ワイヤ…… 調整：300時間運転毎又は1年に1回
- ●ブレーキ　シュー…… 交換：300時間運転毎又は1年に1回
- ●クラッチ　シュー…… 交換：300時間運転毎又は1年に1回
- ●吸入･排気弁すき間 …… 点検･調整：300時間運転毎又は1年に1回
- ●燃料タンク･燃料ろ過網 …… 清掃：300時間運転毎又は1年に1回
- ●燃焼室(バルブ摺合せを含む)…… 清掃：300時間運転毎又は1年に1回
- ●燃料チューブ…… 点検：2年毎
  交換：4年毎

クローラが外れたときの応急処置

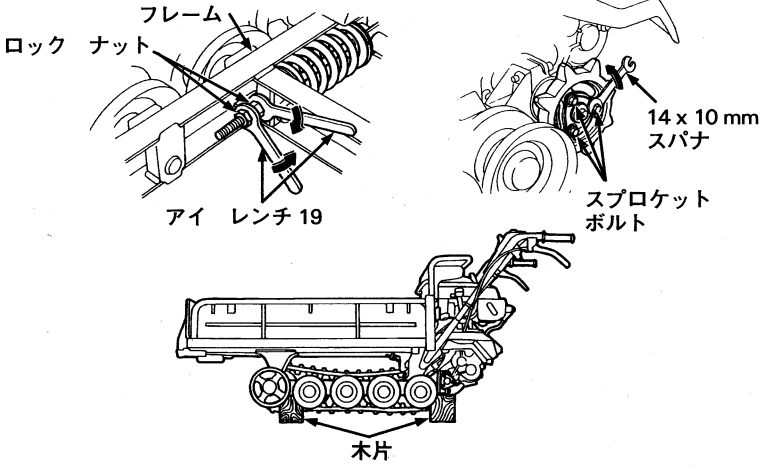
万一作業中にクローラが外れた場合は、次の要領で応急処置を行ってください。

1.「エンジンの止めかた」に従がって、エンジンを止めてください。(17頁参照)
2. 積荷がある場合は、荷台から荷物を降ろしてください。
3. 本機を平坦な場所へ移動して、荷台を上げてください。
   下記タイプは荷台締付けボルトを左右2本外して上げてください。
   (CJタイプ)

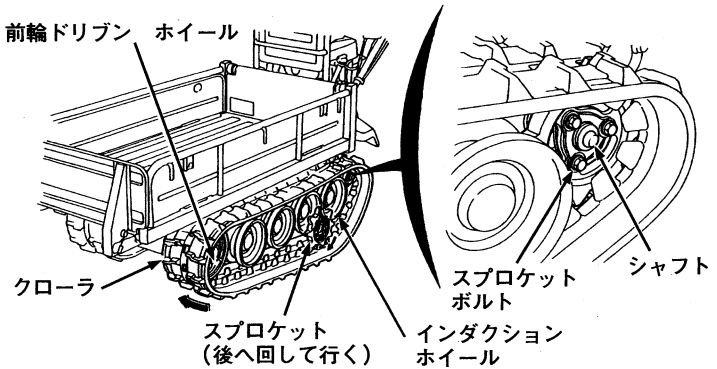
注意

- **ダンプした荷台が落ちてきますので、荷台が落ちないよう必ず木片等で固定してください。**

4. ロック　ナットをゆるめて、フレーム側ナットをいっぱいに締込んでください。(クローラを取付けやすくするため)
5. スプロケット締付けのボルトを外してください。
6. 本機の下2ケ所に木片等(車輪が浮く程度)を入れ、傾斜させてください。
7. スプロケットを外してください。



8. 前側のドリブン　ホイールにクローラをセットしてからスプロケットをインダクション　ホイールの間からクローラに噛み合わせます。
9. スプロケットをクローラの溝にそって回しながら後ろへ移動させシャフトに入れてください。
10. スプロケット　ボルトを確実に締付けてください。



11. 木片を外して、本機を水平にしてからクローラの張り調整を行ってください。（調整方法は、21頁参照）

注意

- **クローラの取付けを行うときは、十分注意してください。**
- **本機を倒して作業しないでください。（オイル、ガソリンがこぼれ危険です。）**
- **応急処置後は必ずお買いあげ販売店で点検を受けてください。**

7 長期間使用しない時の手入れ

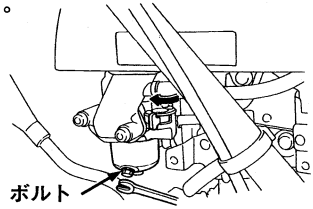
★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから外してください。

1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

〈抜きかた〉

1. 燃料コック　レバーを**"出"**の位置にして、ドレン　ボルトを外して、ガソリンを容器に受けてください。



2. 完全に燃料が抜けたら、ドレン　ボルトを元の状態に戻し、燃料コック　レバーを**"止"**にしてください。

注意

- **燃料を抜く時は火気厳禁**
- **風通しの良い場所で行ってください。**
- **抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。**

2 エンジン　オイルを交換してください。（交換のしかたは19頁参照）

3 空気清浄器を清掃してください。（清掃のしかたは6頁参照）

4 運搬機各部の清掃を行い、締付けを点検してください。また27頁を参照して各部の給油を実施してください。

5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

6 カバー等をかけるか、屋根のある場所で風通しの良い場所に保管してください。

注意

- **保管する場合は、エンジン排気系が完全に冷えてから、燃えやすいものが近くにないところに保管してください。**

8 故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが運搬機を長持ちさせる秘けつです。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか?
- エンジン　オイルは規定量ありますか?
- 点火プラグから火花が出ますか?

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。
プラグを取外し、プラグ　キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ　キャップ以外には触れないでください。)、エンジン　スイッチを**"運転"**の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意

- **この点検は風通しのよい場所で行ってください。**

- 始動方法は、取扱説明書通りですか?
  走行クラッチ、サイド　クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。
- 走行クラッチ　ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか?(22頁)
- サイド　クラッチ　ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか?(24頁)

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

故障の修理
お買いあげ販売店へお申し付けください。

9 主　要　諸　元

名称（タイプ）		HP400(CJ, CJL, CJN, BJ)		
型式		NAA		
エンジン				
名称		GXV120		
形式		強制空冷、4サイクル、頭上弁式		
排気量		118 cm³		
内径 x 行程		60 x 42 mm		
点火時期		上死点前25°		
点火方式		トランジスタ　マグネット		
エンジン　オイル容量		0.6 ℓ		
燃料タンク容量		1.6 ℓ		
点火プラグ		BPR4ES(NGK)		
フレーム				
タイプ		CJ, CJL	CJN	BJ
全長		1,800 mm	1,498 mm	1,855 mm
全幅		620 mm		
全高		845 mm		
乾燥重量		147 kg	125 kg	162 kg
全装備重量		150 kg	128 kg	165 kg
変速段数		前進2段、後進1段		
車速		1速-1.4 km/h　2速-3.5 km/h　後進-1.3 km/h		
最大積載量	平地	350 kg		
	傾斜地	250 kg		
クラッチ　オイル容量		0.8 ℓ		
ミッション　オイル容量		2.0 ℓ		
クローラ（幅）x（長さ）		180 mm　X　2,220 mm		

※ CJ: 荷台付キャリア　タイプ　BJ: ホッパ　タイプ
CJN: 荷台なしタイプ　CJL: 荷台付キャリア　タイプ　ランプ　コイル付

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。